

## 令和元年度第4回練馬区食育推進ネットワーク会議(第7期) 会議要録

- 1 開催日時  
令和2年1月16日(木)午後2時00分～3時00分
- 2 開催場所  
豊玉保健相談所栄養室
- 3 出席者  
委員長 健康部長  
副委員長 健康部健康推進課長  
委員 阿出川委員、神谷委員、岸委員、堀委員、園畑委員、石井委員、山田委員、北村委員  
幹事 大泉保健相談所長、都市農業課農業振興係主事、健康推進課健康づくり係長、健康推進課歯科保健担当係長  
事務局職員 健康推進課栄養指導担当係3名、健康推進課健康づくり係1名、豊玉保健相談所栄養担当係長、石神井保健相談所栄養担当係長  
欠席委員 白鳥委員、谷内委員、前田委員、戸田委員、井上委員、白石委員
- 4 公開の可否 公開
- 5 傍聴者数 0名
- 6 配付資料  
資料1 練馬区健康づくりサポートプランについて  
資料2 JA東京あおば農業祭 食育テント出展報告  
資料3 練馬区食育推進講演会報告  
資料4 女子マルシェ出展報告  
資料5 ねりまの食育応援店事業報告
- 7 会議要録

### (1) 開会

(委員長) 令和元年度第4回練馬区食育推進ネットワーク会議を開催いたします。本日、お忙しいところご出席いただきありがとうございます。本日欠席のご連絡をいただいておりますのは、白石委員、井上委員、谷内委員です。その他の委員の方は少し遅れてご出席の予定です。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。案件1) 練馬区健康づくりサポートプランについて、区の健康づくりの計画の改定を今年することになり、誰もが自ら健康づくりを取り組むまちの実現を目指す健康づくりサポートプランとして素案をまとめまして、パブリックコメントで区民の皆様から広くご意見を伺っているところでございます。最終的には3月末の策定を予定しています。この計画については食育推進計画についても包含した形にな

っておりますので、その辺を中心に、資料1について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料1説明

(委員長) 資料1について、委員の皆様からご意見等をいただきたいと思います。

(委員) 特に私が良いなと思ったのは評価指標が非常に具体的で数値化されているところですね。1%でも目標に達していないということが明らかになるというのは、逆にすごく追い込んでいる感じがありますね。それ位指標をはっきりさせていかないと、理想論ばかりで全然目標が達成していかないので、とてもシビアだなと思いつつ、これはいい取組だな、素晴らしいなという感想を持ちました。学校としては、小学校、中学校それぞれ子どもたちの発育の仕方も違いますし、家庭での関わり方も違いますが、年齢に合わせた食育を推進しています。本校は明日、社会科見学でJA東京あおばさんに見学に行ってお話を聞くことになっています。また、練馬大根引っこ抜き大会の後には、練馬区立全小中学校でその練馬大根を使った給食メニューが出されますが、多くの学校で出される“練馬大根スパゲッティ”が子どもたちは大好きです。練馬でとれた野菜を実際に給食で食する、そしてそのメニューを子どもたちが大好きということは、とても大事なことだなと思っています。昔は家族と一緒に食事をする中で、箸の持ち方や食器の置き方や、バランス良く食べることなど、自然と身につけていたと思いますが、今そういう機会が子どもたちの中にはなかなか無いので、学校に課せられている課題は非常に大きいと感じております。とは言うものの「給食を絶対食べなさい」というようにはなかなか言えないのも現状です。いかに楽しく、美味しく食べられるか、給食指導の在り方というものを、小学校も中学校も研究しています。

(委員) 中学校は教育研究会の食育部会で、毎年夏休みに練馬区の食材を使った朝ごはんコンクールを行っています。中学生が実際に献立を考え、調理をしたものをコンクール形式で審査し、それを紹介する取組をしています。また、食育推進委員会が中心となって、授業での実践・研究を毎年行ったり、それを区内の先生方の研修会として、各学校での食育を考えていくという取組をしています。日頃の給食を通して食事を考えることに関しては、栄養士と教員が協力して進めているところです。残念ながらこちらの計画にはそういった部分が見えてこないですが、何かの機会にまた、中学校での取組についても広報できていくと良いのかなと思っています。

(委員長) ありがとうございます。資料1の82ページには小中学校の食育推進計画について記載してあります。やはり子どもの食習慣というのは、学校での働きかけが非常に重要だと思うので、必要があれば保健給食課等を通じて学校とのいろいろな連携を取らせていただければと思います。

(副委員長) 先程、給食で練馬大根スパゲッティを食べているという話がありましたが、練馬大根スパゲッティがある種の練馬ソウルフードといった風に、大人になってから「食べたことある」と、練馬区出身者同士で話が合うと聞いたことがあります。練馬大根スパゲッティが練馬の自慢できるようなソウルフードになりつつあるのかなと思います。

(委員) そうですね。実際に学校の中では、練馬大根スパゲッティをお弁当で持ってきていた子がいて、私はちょっとびっくりしました。麺と大根おろしを分けて、ベチャベチャにならないように持ってきていました。たぶん子どもが「お弁当を練馬大根スパゲッティにして」と親に頼んだのだと思います。やはり地場の物を自分の誇りとできるということは大事なことかなと思います。給食の人氣メニューで、残食も少ないと思います。

(委員) 中学校も同じです。普段は野菜の残食が比較的多いですが。

(委員) 子どもたちは季節のものを知りません。学校ではいかに食文化を日常生活の中に入れていくかを考えています。昨年度食育推進委員会の中で、年間を通してどういう食育かできるかについて検討しました。各教科の中で、理科では大根を育てたり、家庭科はもちろんですけれども、いろいろな教科の中で「食」に取り組む年間計画をリーフレットにしました。いろいろな教科で食育できるよね、という内容でリーフレットを作って取組んでおりますので、そんなことも大切にしていきたいなと思っております。

(委員長) ありがとうございます。地場農産物の話が出ましたが、JAさんは何かありますか。

(委員) 「ちゃんごはん」の中では、旬の野菜を子どもたちに味わってほしいということで協力させていただいております。練馬大根引っこ抜き大会もおかげさまで13回目が終わりました。練馬出身の子たちの「練馬スパゲッティを食べたよね」という話題については、うちの職場にも何人か、練馬スパゲッティを食べて卒業した職員がおります。ずっと続けていくことは大変な部分もあり、新しいことへの取組も大切ではありますが、一つのことを続けていくことも大事ななと感じました。

(委員) 私は小・中・高と練馬の学校でしたが、先程から話に出ているように、練馬大根スパゲッティはみんな一番好きだったと言っています。給食の中で、わかめご飯とカレーと練馬大根スパゲッティがすごく好きでした。私の大学にも練馬出身の友人が何人かいますが、その友人たちも「練馬大根スパゲッティが給食で出るとうれしかった」と言っていました。すごくシンプルな料理ですが、本当に美味しく、そういうメニューが一つでも給食にあると、子どもたちが練馬の野菜を覚えてくれると思います。その他に友人の意見では、練馬大根以外で練馬の野菜を使った料理があったらまた更に食に興味を湧くのではという

ことも言っていたので、もう少し広げてみてもいいのかなと思いました。

(委員) 練馬のキャベツですかね。

(委員長) このネットワークの中で考えてもらっても良いですね。

(委員) 今、練馬大根スパゲッティの話聞いて、これは行政がしっかり取組んできた事業なんだな、すごいなと思いました。悲しいのは、練馬大根を親が知らなかったことです。お子さんは練馬大根を食べたことがあるのに、その親は食べたことが無いという方が結構いらっちゃって、自分が今までお店をやる中で受けた衝撃でした。それは別に練馬大根だけではなくて、食文化もそうですし、親が伝えていないのか伝えきれていないのか、忙しさに紛れちゃっているのかなという思いがありました。先日出席したねりまの食育応援店の交流会の中でも少しお話をさせていただきましたが、食育応援店自体はおそらく皆さん高い意識をもってやっている方が多いと思います。というのは、意識がないと店がつぶれます。自分たちの生活もかかっています。ただ、それを束ねる人や、束ねる組織が、いまいちしっかりしていない。それをすごく感じています。それを誰か指揮をとって引っ張っていってくれるのかといたら、個人店はなかなか難しい。やはり行政の力も借りながら、我々お店側も提供するし、農家にも協力してもらい、学校側にも協力してもらうかたちで、三位一体になっていければ食育応援店ももっと盛り上がっていくんじゃないかなというのは切実に感じております。

(委員長) 食育応援店についてはステッカーを貼ってもらえばいいというだけの話ではないので、お店に協力をいただくかわりに、お店の方にも何かしらメリットがあったほうが良いし、そういう意味では三方一両得のような、事業を良くしていく必要があると思っております。ありがとうございました。

(委員) 先日1月7日にちゃんとごはん事業を学童クラブで行い36名参加してもらいました。その中で、子どもたちに「練馬の名産は何？」と聞いたら、すぐに「練馬大根！」と声があがりました。その時にちょうど、JA東京あおばさんからいただいた大根が、葉っぱのついた立派な練馬大根で、普段、スーパーで見るのは葉っぱが無い大根が多いと思いますが、直に葉付きの大根を見られて、実際に持ってみてといったことを体験することも、とても貴重な体験になったと思います。「葉っぱの部分はどうしようか？これは捨てちゃう？」と子どもたちに聞いたら、「いや、これも使う」と言いました。大根の葉は七草がゆにはなりませんでしたが、菜飯にいただきました。子どもたちの中で大根は練馬の特産品だということはよく分かっているんですね。子どもだけでなく大人にも伝えていけたらと思っております。

(委員) 先程学校での食育について話がありましたが、食育応援店側から一緒に協力できたらいいなと思っております。自分の子どもの学校を見ていて、食育の授業は

大手の企業に外部委託して実施している場合が多いことがずっと気になっていました。もう少し練馬発信のものができないかなと思っておりましたが、先程先生のお話を聞いて、学校での食育について食育応援店も参加していけたら広がっていくのかなと思いました。よろしくをお願いします。

(委員長) この話は健康推進課が間を取り持った方がいいですね。他に何かご意見はございますか。健康づくりサポートプランについてご意見をいただきありがとうございます。それではこの健康づくりサポートプランについては明日までご意見等も募集しています。何かあればメールでも結構ですのでご意見をお寄せください。それでは続きまして、案件の2)の報告をお願いします。

(事務局) 資料2-1、資料2-2説明

(委員長) 何かご質問等がありますか。野菜の摂取量アンケートについては、やっぱり野菜を買いに来る人たちだから普通の調査よりは高めの結果になるということでしょうか。では続いて案件の3)食育推進講演会の結果報告について報告をお願いします。

(事務局) 資料3説明

(委員長) これについてご質問等がありますか。当日第2部でお話いただいた委員のお二人はいかがでしょうか。

(委員) 第2部は唐突に昆布を持って登場して始まったので、皆さんが帰る隙を失ったというお話がありましたが、参加された皆さんが先生の話に続いてそのまま聞いて下さいました。きじま先生のお話はすごく和やかなお話で、こうじゃなきゃいけないというような固い食育の話ではなくて、食育は家庭の中で自然と伝わっていくもので、改めたものではなく自然と培っていくというようなお話でした。そんな先生のお話の流れを受けて、第2部の始まりは昆布を持って突然登場というようなことをさせていただきましたが、皆さんが帰らずにちゃんとごはんの話を聞いていただけたのは良かったのかなと思います。

(委員長) ありがとうございます。また来年度についてはこのネットワークの会議の中でもご意見をいただきながら、よりよい事業にしていければと思います。では次に、案件の4)若い世代部会の中で若い世代へのアプローチとして女子マルシェへの参加をご提案いただき、健康推進課として出展しましたので事務局から報告をお願いします。

(事務局) 資料4説明

(委員長) 何か質問等がございますか。これは食育実践ハンドブックなどを配って食育をPRすることが目的ですか。

(事務局) はい。食育の事業の紹介や、野菜を売っているマルシェですから野菜の食べ方を紹介しながら野菜の摂取量につなげるようなアプローチを行いました。

(委員長) こういうイベントで、配付している冊子に載っているようなメニューを実際に

調理して試食させるっていうことは可能ですか？実際に口にして「うまいなあ」と感じたら、家でも作ってみようという風になると思いますが。

(事務局) 外でのイベントですので難しいと思います。

(委員長) キャンプ場ではアウトドアで料理していることを考えると出来そうな気がするけれど難しい？保健所の許可が必要？

(事務局) 部会でも実際に試食させるのがいいのではという意見をいただきましたので、引き続き検討させていただきます。

(委員長) では最後の案件5) ねりまの食育応援店の報告について、資料5の説明をお願いします。

(事務局) 資料5説明

(委員長) 食育応援店の情報交換会ではいろいろご意見を頂戴しありがとうございました。それだけ真剣に取り組んでいただいているということだと思いますので、いただいたご意見は区の方で検討して、この事業をよりよい方向に進めていきたいと思っています。このことに関してご意見はありますか。これで案件は以上になりますが、その他として何かありますか。それでは、第1部の全体会議は以上とさせていただきます、次回の会議は年度末の3月を予定しております。日程については決定次第、ご案内をさせていただきます。ではこの後部会会議に分かれてそれぞれのご検討をお願いしたいと思います。ありがとうございました。